
情報サービス産業協会（JISA）・情報処理学会（IPSJ）共催 生成 AI×スタートアップオンラインセミナー開催報告

令和 7 年 10 月 10 日、企画委員会（委員長：舩越 真樹：(株)ID ホールディングス 代表取締役社長）では、経済産業省から渡辺 琢也氏（経済産業省 商務情報政策局 情報産業課 AI 産業戦略室長）、ギブリー(株) 取締役 新田 章太氏、(株)インフォメーション・ディベロプメント コンサルティング事業本部 プリンシパルフェロー 黒住 好忠氏を講師に迎え、生成 AI×スタートアップオンラインセミナーを開催した。このセミナーは「第 16 回 IPSJ 賛助企業との交流会」との共催企画として、「生成 AI」をテーマに講演し、287 名の参加申込を得て開催された。以下、基調講演を中心に紹介する。



まず、経済産業省の渡辺氏が「AI 産業の競争力強化に向けて」と題する基調講演を行い、GENIAC (Generative AI Accelerator Challenge) の目的や取組状況を紹介した。GENIAC では「計算資源」「データ」「ナレッジ」の観点から各種施策・支援を展開している。

基盤モデル開発のための計算資源の調達支援については、現在第 3 期目の取組を推進中。生成 AI 基盤モデル開発者の基礎体力づくりを目的とした初期の取組から社会実装を見据えた基盤モデル開発を進めるフェーズに移行している。AI 化されていない現場のデータはいまだ多く存在し、現場データを元にした AI は産業競争力の源泉となるとの認識の下、取組を推進している。GENIAC コミュニティには基盤モデル開発者だけでなく、様々なレイヤーがいる。本年度は、生成 AI アプリケーションの開発促進のための懸賞金コンテストである GENIAC PRIZE を実施。「社会課題領域」をテーマとする分野（本年 9 月末を応募期限）では、首都圏以外の応募が半数を占めている。

講演では、データを起点にしたエコシステム作り、フィジカル AI の開発促進に資する取組も紹介され、我が国の AI 産業の競争力強化に向け、「社会実装による経済価値効果創出」「AGI 時代に向けたフロンティア AI 開発」「海外市場展開」を支援し、国産モデル作りを進めていくと強調した。

続いて、ギブリー(株)の新田氏が、『AI 時代の開発アプローチ 2025』エンジニアに求められるスキルと組織戦略』について、(株)インフォメーション・ディベロプメントの黒住氏が、「システム開発の未来～AI 時代のエンジニア改変～」について解説した。

（企画委員会事務局）